

令和4年度 学校園評価シート

学校園名

加古川市立川西こども園

1 園教育・保育目標 「心豊かに、のびのびと素直に表現する子供」—遊びから学び、心と体を弾ませて—

2 園指導目標 (1)自分らしさを発揮し、素直に表現する子供 (2) 友達を大切にし、思いを共有して遊ぶ子供 (3) 最後まで粘り強く取り組む子供

<点検結果評定基準> A: 達成している B: まあまあ達成している C: あまり達成していない D: 達成していない

I 経営の重点に関すること

重点目標	実践目標	評価項目	評価	○取り組み状況 ▲課題 ◎改善策
1 自分らしさを発揮し、素直に表現する子供	一人一人の特性や課題をとらえ、望ましい人間形成につながるようにつなげるように努める。	園児の表情、しぐさ、言葉などから内面理解し、園児が達成感・満足感が得られる適切な言葉かけや対応、環境構成はできたか。	B	○週日案では毎日の繰り返しの中でも、園児の状況に合わせ、ステップアップの計画を立てながら、ねらいが分かるように作成することを心掛けている。 ▲個々の園児の読み取り、援助に対し、保育教諭同士の話し合う時間が取りにくく、つながりがもちにくい。 ◎一人一人をよく観察し、一日の様子、保育教諭の関わりを振り返り、具体的な援助を考える。 ◎感情的にならず、心にゆとりをもちながら園児と関わっていく。 ◎1年の見通しをもって計画し、ねらいに沿って保育をしていきたい。
		園児がのびのびと発達に応じた方法で表現できるように教材研究をしたか。	B	
		園児の表現しようとする意欲や態度を記録し、次の活動に生かすことができたか。	B	
2 友達を大切にし思いを共有して遊ぶ子供	友達と心を通わせながら、人間尊重を基礎にした温かいふれあいのある生活を送る。	園児が安心感をもって登園し、身近な人と親しみを持てるような援助を心がけたか。	A	○園児自身が自分のことが好きになれるように、認め言葉を掛けるように心掛けている。そこから、いろいろな友達のよい面に気が付くようになっていく。 ▲コロナ禍で、他クラス、異年齢児との交流が少なかった。 ◎好きな遊びの時間などに、遊びを教えあったり、一緒に遊んだりする時間を設ける。 ▲クラス全体をまとめようとする、一人一人と丁寧に関わりがもちにくくなる。 ○クラスに入ることでできる職員が増え、特別支援が必要な園児や、個別の関わりが必要な園児に対して細やかな援助ができるようになった。 ◎「キラキラエピソード」として職員間で話し合う機会を設けている。いろいろな価値観で子供のよいところ、変化を読み取り、温かな雰囲気や友達同士をつなげていきたい。
		保育教諭や友達と一緒にいることや、活動することの楽しさを感じられるような関わりはできたか。	A	
		園児の心の読み取りを意識しながら保育をし、園児と園児の心をつなぐ援助を心がけたか。	B	
3 最後まで粘り強く取り組む子供	自分で目標を決め最後まで諦めずに取り組める援助と環境構成を整える。	遊びの中で、工夫したり協力したりできる環境や保育教諭の援助を意図的に考えて教育・保育を提供できたか。	B	○園児が自分からやってみようと思うような遊びや環境を整え、一人一人を認める言葉掛けを行った。 ▲禁止語はできるだけ使用しないように心掛けているが、とっさに出てしまうことがある。 ◎言葉掛け一つ一つについて見直し、振り返り、肯定的な言葉を使って園児と接するようにする。 ◎環境を整え、園児一人一人が主体性をもって遊べるようにする。
		一人一人の興味や発達を考慮した遊びを提供するための教材研究を心がけたか。	B	
		最後まで諦めずに取り組む意欲や態度をはぐくむための援助と環境構成を整えることができたか。	B	

II 施設の機能に関わること

分野	項目	評価	○取り組み状況 ◎改善策
教育及び保育の 全体的な計画に 関すること	園児理解と その対応	B	○いろいろな職員が子供に関わって援助しているが、一人一人に応じた個別の対応の周知が細かなところまで伝え合うことが難しかった。 ◎短い時間でも話をするようにし、担任や特別支援担当と連携しながら、ねらいを明確にし、細やかに対応していく。 ○「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を職員が目につくところに掲示し、意識を高めている。 ○クラスだよりで「どこが育ったのか」を意識する紙面づくりをしている。
家庭との連携・ 協力に関するこ と	保護者との 相互理解・ 対応等	B	○個々の育ちは送迎時に直接伝えたり、連絡ノートを通して丁寧に知らせたりするようにしている。 ○「お知らせボード」「かわにしタイムズ」「ふれあい通信」「キッズリー」の活用、「クラスだより」の作成 ◎言葉よりも写真やドキュメンテーションの方が伝わりやすいと感じる。活用していきたい。
地域との連携に 関すること	地域・自然 等の関わり	B	○地域の方に支えていただき、関わりながら、園の畑や地域の方の畑で栽培や活動ができています。 ◎力を貸してくださる地域の方に感謝の気持ちを伝えながら、「命」をいただくことを子供に伝え、大切さを知らせていく。 ○園で飼育している小動物のお世話をしながら、触れて感じる経験をすることで心の育ちにつながった。
小学校との連携 に関するこ と	小学校との 円滑な接続	B	○コロナ禍で交流がなく、特別支援児について職員間の申し送りを行っている。 ◎5年生と年長児が交流する機会をもつことができた。園児は小学校に憧れの気持ちをもつことができた。
安全対策に関す ること	事故・災害・ 感染症対策	B	○事件事故が起こった時には、自園のこととして考え、話し合いや共通理解をするようにした。 ○登降園システム（キッズリー）を利用し、朝9時の時点で登園しているか、欠席の連絡がない園児に対して確認を行っている。 ◎避難訓練は火災だけでなく、地震に対しても現実的にどう対処すべきかを具体的に考えていく。地震の訓練を年2回にしていく。 ◎感染症対策について、個人情報保護の観点から、必要な情報のみを提供し、感染拡大防止に努めていく。

III関係者評価

I 経営の重点に 関すること	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策で思うように保育や行事を進めにくい状況の中で、出来ることを考えたり、工夫したりし、最大限に子供たちのことを考え園の運営をしている。マスクで保育教諭の表情が見えないなど、意思疎通がしにくい言葉掛けに気を付けたり、一人一人との関わりを大切にしようとしていたりしているところを評価したい。 ・来年度からも子供たちの記憶に残るような幼児期を過ごせるように、行事や遊びに取り組んでほしい。また、小学校との交流をもっともっとして行ってほしい。 ・保護者と地域と園と一緒に子供たちを育てていかなければならない。園は保護者に向けて写真や言葉で伝えようとしているが、大変な苦勞を察する。家庭でも道徳、作法が身につくようにすることも必要ではないか。 	B
II 施設の機能に 関すること		